

『主体的に環境（人・もの・こと）と関わり合う中で自分の思いを実現する』姿

ねらい 学校山で友達と一緒に体を動かしたり、思いを伝え合ったりしながら、遊ぶことを楽しむ。

本日の保育について

北幼稚園の裏にある学校山（小学校と共同で使用）では、魅力的な活動が展開されています。5歳児にとって、秋の学校山は木の実、紅葉した落ち葉など発見や気付きの宝庫であり、教室や園庭では味わうことのできないダイナミックな遊びを満喫できる、日常の環境とは異なる世界です。その遊びは、健康な心と体、自立心、協同性、自然との関わりなど、子どもが成長するために大切な様々な資質・能力を育むことにつながります。

内田先生は、5歳児の10月の活動として「学校山での探険ごっこ」を設定しました。学校山にもともとある環境を生かし、「足かけターザン」「三本橋」「タイヤブランコ」「吊り橋（ロープ渡り）」などを組み合わせ、子どもの「遊びたい」という気持ちや遊びの発展を想定した環境づくりを行いました。それぞれの遊びをきっかけに思いを伝え合い、友達と関わり合いながら夢中になって遊ぶ姿を願ったのです。

賢人さんは、引っ込み思案なところがあり、初めてやる遊びに進んで取り組むことが苦手です。初めて学校山に散歩に出かけた時には、周りの友達が様々な遊びにチャレンジする中で、なかなか一步を踏み出せずにいました。そこで内田先生は、賢人さんの不安な気持ちを取り除き、自分から進んで取り組んでいけるように、様々な環境（人・もの・こと）と関わる仕掛けや支援を行っていきました。



北幼稚園学校山環境構成図

子どもの「やりたい気持ち」を高める支援

ずっと探険遊びをやりたいと思っていた賢人さんですが、山の斜面に怖さを感じていました。内田先生は、賢人さんの恐怖心よりも「やりたい」という思いを高めるために、まず、賢人さんがいつも頼りにしている亮太さんとペアで活動する場を設定しました。亮太さんが側にいることで得られる安心感が、賢人さんのやりたい気持ちを後押しすると考えたのです。

さらに内田先生は「今日の隊長は賢人さんだよ、お願いね」と声を掛けました。すると、賢人さんから周りの友達に向かって「今日は僕が隊長だ、三本橋へ行くぞ」と力強い声が聞こえてきました。「隊長」という言葉が、賢人さんに頼りにされる喜びや自信を与えたのです。内田先生のこのような支援により、賢人さんの「やりたい」という思いが高まり、一步を踏み出すことへとつながりました。

子どものつぶやきを生かした、環境の再構成

遊びに向かう力を得ることができた賢人さんでしたが、山の斜面はやはり怖く、下まで行く手立てが見つかりません。「どうしよう、下に行けない」という賢人さんの声を聞いた周りの友達は、「何かにつかまったらどうだろう」「ひもみたいなものがあつたらいいな」と相談を始めました。内田先生はその子どものつぶやきを聞き逃しませんでした。その場を他の先生に任せ、一旦園に戻り、手に短いロープと布を持ってきました。ロープは短く到底下まで届きません。内田先生が布を裂いて、短いロープに結び、長くしていくのを見ていた女の子が「私も結べるよ」と言って結び始め、あっという間にロープが下まで繋がりました。このロープを使って賢人さんは、急な斜面を満足げに何度も行き来することができました。たった1本のロープが子どもの活動を広げていったのです。

環境の再構成とは、子どもの表れを的確に捉え、ねらいに向けて遊びを発展させていく状況を考えた上で、その都度適切に修正していくことです。



<学びの芽生えが、つながって…>

子どもの遊びは様々な学びの芽生えを育みます。例えば、学校山の斜面の滑り台ではひもを縛る技能が身に付きました。また、宝探しで見つけた宝の数を表に示すことで、量の感覚も養うことができました。このような体験の積み重ねが、やがて小学校教育において各教科等で育む資質・能力につながっていきます。教師が遊びの中で、学びの芽生えがどこに生じるかを意識し、子ども一人一人の育ちを見取っていくことが大切です。そのことが、小学校への円滑な接続につながります。

